

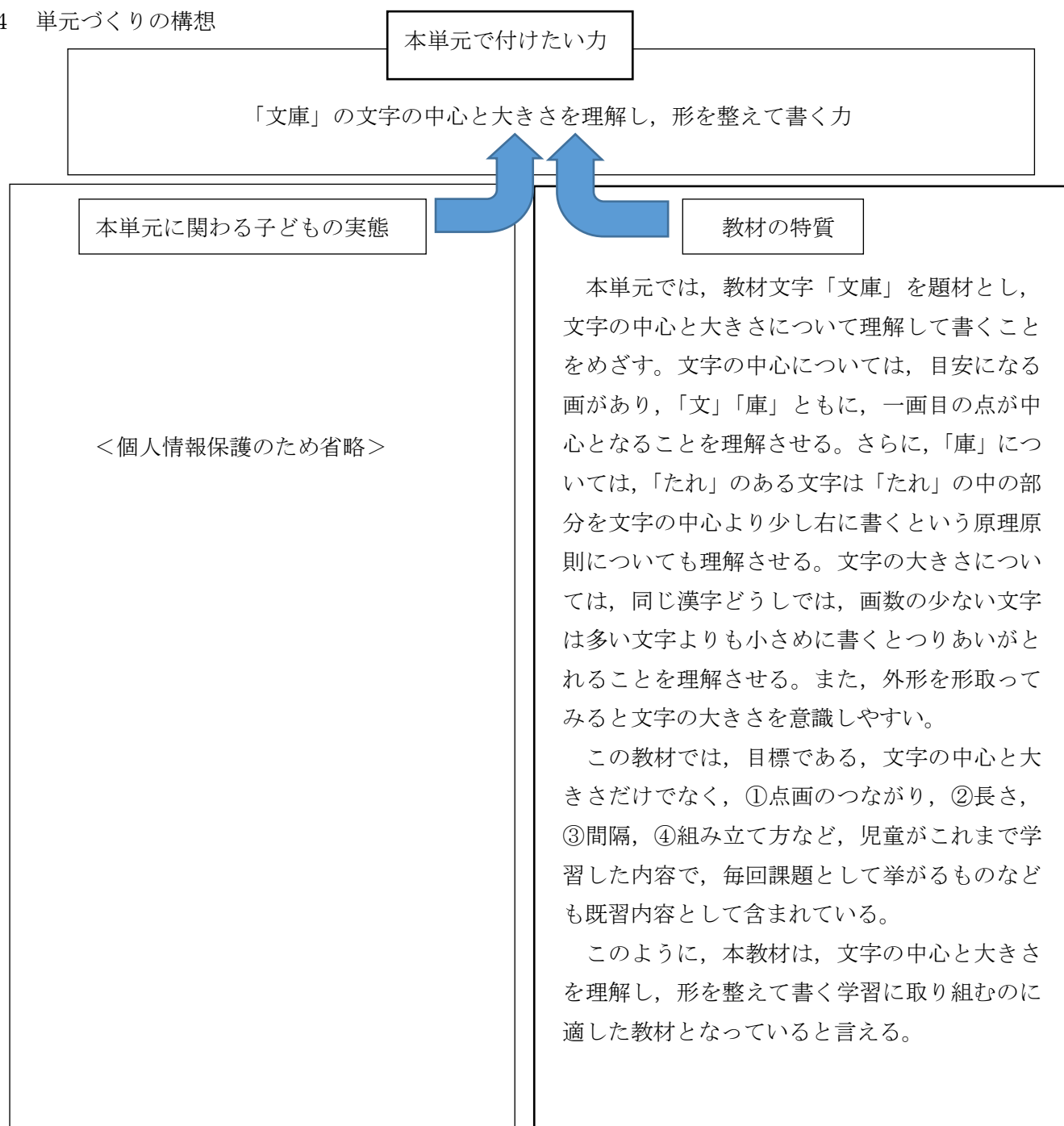
# 第5学年1組 書写学習指導案

日 時：平成30年11月30日（金）

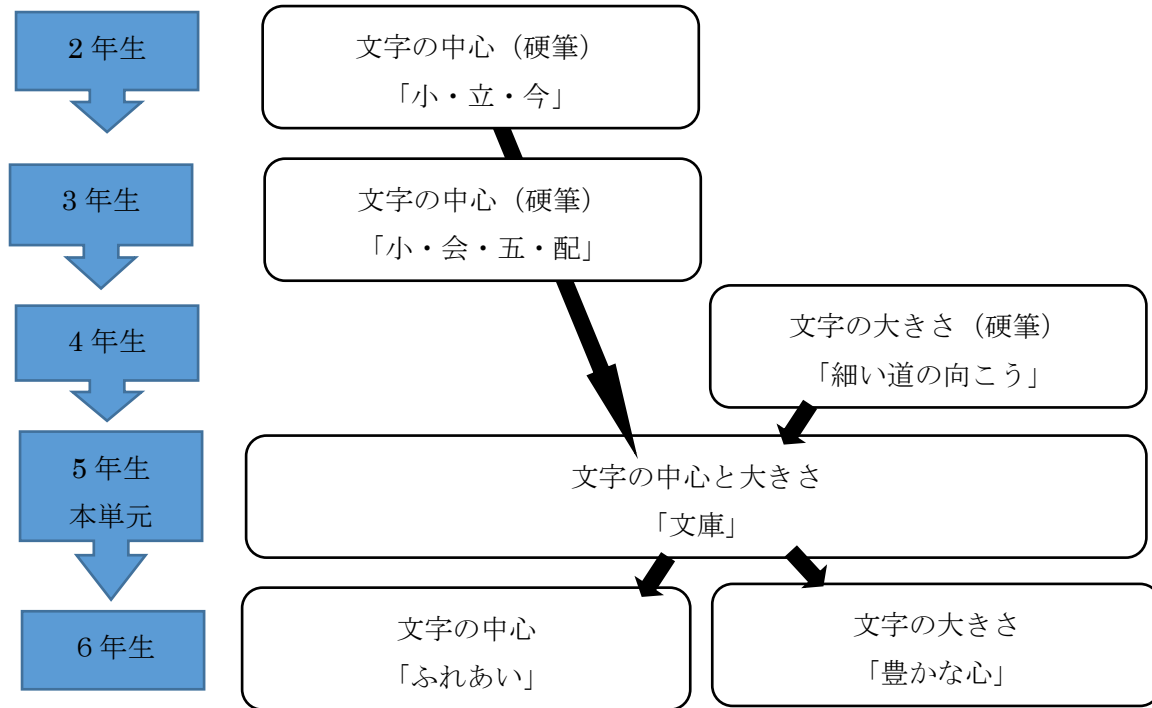
場 所：浜田市立国府小学校 5年1組教室

授業者：山崎悦子

- 1 単元名 文字の中心と大きさに気をつけて書こう
- 2 教材名 「文庫」
- 3 学級 国府小学校 5年1組 男子12名 女子15名 合計 27名
- 4 単元づくりの構想



## 5 付けたい力の系統性 「文字の中心と大きさ」



## 6 研究とのかかわり

### 視点1 言葉に向き合い、主体的・対話的に学ぶ授業づくり

#### (2) 視覚的な指導の工夫

- ・めあてに合った練習シートの選択

技能的な向上を目指すために文字の中心や大きさが意識できる練習シートを活用する。練習シートは、中心点シート・車庫シート・外形確認シート・かご字・骨書き・穂先の通り道と6種類準備する。児童が必要だと思うものを自分で選び、適宜練習シートとして持たせる。

- ・中心見つけ棒の活用

文字の中心に気をつけて書くという感覚を身につけるために、前単元から活用した「中心見つけ棒」を使う。自分で書いた字や手本に重ね合わせて使うことはもちろん、中心を確認したいときには常に使っていく。

- ・手本へのポイントの書き込み

単元後半のまとめ書きでは、すべて意識して書くことがねらいとなってくる。その際の助けとなるのが、やはり児童が持っている教科書である。1時間目には、教師が児童から出た、「文庫」で気をつけたいポイントを「拡大手本」に書き込んでいくが、それを児童一人一人も教科書に書き込み、練習では常に意識できるようにしたい。

#### (3) 書写カードの工夫

- ・書写学習カードの活用

児童には、単元を通して記入できる単元学習カードをもたせる。付箋も貼ることができ、直接書き込むこともできるカードとする。このカードの中へ、単元の始めと終わりに硬筆で「文庫」

を書くようにし、毛筆の学習で学んだことを硬筆に活かすことを意識できるようなシートにする。毎時間の学習のふりかえりでは、書いた文字の良い点や成長した点、次の課題をカードに書き残していく。このことが、次時の学習のめあてを明確にし、ひいては、達成感を味わうことにつながると思う。

#### (4) 書写指導のスタイルの提示と書写ナビの活用

##### ・書写ナビの活用

まとめ書きでは、これまでに書写で学んだいろいろな点画のつながりをさらに意識して書くことができるように、また、友達と対話をするときの助けにするように、いろいろな点画・筆使いについて書いてあるものを「書写ナビ」として児童一人一人に持たせる。すぐに手にとって確認ができるように、常に下敷きの下に持っておき、いつでも見ることができるようにしたい。どんなコツがあったか、いつ学んだことなのか、ひと目で分かるようになっているので、困ったときにはいつでも書写ナビに返ることができるように声かけしたい。また、書き込みも可能なので、児童がつけ加えたいと思ったことは適宜書き込んでよいこととしていく。

#### (5) 書写学習における対話の工夫

##### ・対話の工夫

本単元を通して、対話を取り入れる。視点は「アドバイス・感想交流」とし、本時ではグループや学級みんなで対話したい。めあて達成のためには、どうしたらうまくいくのか、コツを伝え合う活動である。また、うまく書けたところや伸びたところなど自分からアピールしてもよいこととしたい。たとえ、すべての児童が発言する時間がなくても、友達の意見を聞いて自分の練習やまとめ書きに生かすことができるようにしたい。また、対話を通して感じたことや練習に生かすことができたこと、本当は伝えなかったことなども本時の終わりのふり返りに出てくるような時間となるように声かけしていきたい。さらに、前単元でも活用したタブレットを準備しておき、対話の時の客観的な助けとして児童がいつでも使えるようにしておく。

## 視点2 言葉の力を積み重ね、学ぶ集団づくり

#### (3) 行事との関連

##### ・ノートコンテストの開催

書写の学習が、より日常生活に生かされることを期待して、漢字練習ノートや自主学習ノートのコンテストを学期ごとに5年生で開催する。2学期は、漢字ノートと自主学習ノートにおいて「いろいろな点画のつながりや文字の大きさや中心に気をつけて書こう」をめあてに取り組む。

## 7 単元の指導目標

- ◎文字の中心の目安になる画があることを理解することができる。【知識及び技能】
- ◎画数の少ない文字は、多い文字より小さめに書くことを理解することができる。【知識及び技能】
- 既習事項に注意して、「文庫」を整えて書くことができる。【知識及び技能】
- ◎硬筆で、文字の中心と大きさに注意して書くことができる。【知識及び技能】
- 文字の中心や大きさについて、自分のめあてを決め、めあてにむかって練習しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

8 単元の評価規準

知識及び技能	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の中心の目安になる画（「文」「庫」ともに一画目）があることを理解している。</li> <li>・画数が少ない文字（「文」）は、多い文字（「庫」）より小さめに書くことを理解している。</li> <li>・文字の中心や大きさ、既習事項に注意して書いている。</li> </ul>	<p>文字の中心や大きさについて、自分のめあてを決め、めあてについて練習しようとしている。</p>

9 単元の指導計画

時間	主な学習活動	・指導上の留意点◇評価規準
つかむ 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書写学習カードに硬筆で「文庫」を書く。</li> <li>○毛筆で「文庫」の試し書きをし、全体で筆順の確認をする。</li> <li>○試し書きとお手本とを見比べて気がついたことについて発表する。</li> <li>○この学習でめざすめあて（文字の中心、大きさ）を伝え、次時のめあてを決める。</li> <li>○今日のふり返りを書写学習カードに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇試し書きと手本を見比べ、文字の中心と大きさにおいて気をつけることなどに気付くことができている。</li> <li>◇文字の中心の目安になる画があることや画数の少ない文字は多い文字より小さく書くことが理解できる。</li> <li>◇文字の中心や大きさに意識して、自分のめあてをたてることができている。</li> </ul>
深める 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今日のめあてを確認し、一枚練習する。</li> <li>○友達と交流し、アドバイスや感想を伝え合う。</li> <li>○交流したことを意識しながら再度練習し、今日一枚を仕上げる。</li> <li>○今日のふり返りを書写学習カードに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇文字の中心や大きさに意識して書こうとしている。</li> <li>・対話の手助けとなるものを準備しておく。</li> <li>◇友達の作品に対して、意見や感想をもつことができる。</li> <li>・必要に応じて練習用紙を活用するよう促す。</li> </ul>
まとめる 3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と交流し、「文庫」を書くために必要な既習事項を含めたアドバイスや感想を伝え合う。</li> <li>○交流を生かして練習してからまとめ書きをする。</li> <li>○今日のふり返りを書写学習カードに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇文字の中心や大きさ、既習事項を意識して、まとめ書きをすることができる。</li> <li>・対話の手助けとなるものを準備しておく。</li> <li>◇友達の作品に対して、アドバイスや感想をもつことができる。</li> <li>・まとめ書きと試し書きを見比べて、伸びたところや対話で感じたところなどがふり返りできるよう声がけする。</li> </ul>
こう筆に広げよう 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆での学習を生かして、書写学習カードに硬筆で「文庫」を書く。</li> <li>○教科書の「広げよう」に載っている字で文字の中心と大きさについて確認し、書写学習カードに練習する。</li> <li>○毛筆と硬筆で書いた課題を自己・相互評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「文庫」の毛筆練習を生かし、文字の中心や大きさに注意して硬筆で書くことができる。</li> <li>◇教科書に載っている字でも文字の中心や大きさについての違いを理解し、書くことができる。</li> <li>◇この単元で身に付けたことや伸びたことをふり返ることができる。</li> </ul>

10 本時の指導

(1) 本時のねらい

- ・文字の中心と大きさ、既習事項を意識して、「文庫」のまとめ書きをすることができる。

【知識及び技能】

- ・友達の作品を見てアドバイスや感想をもち、伝え合おうとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の展開

主な学習活動	時間	・指導上の留意点 ◇評価規準
1 今日の課題をつかむ。 ・本時の学習課題を把握する	2	・前時に学習したことをおさえ、今日の流れを確認する。 ・自分のめあても確認するよう伝え、まとめ書きへの意欲を高める。
・これまで学んだことに注意して、「文庫」のまとめ書きをしよう。 ・文字の中心の目安になる画、文字の大きさ、これまで学んだことを意識して、友達とアドバイスや感想を伝え合う。(書いても、撮ってもOK!)		
2 前時に選んだ一枚を見ながら、グループでアドバイスや感想を伝え合う。 ・文字の中心や大きさ、既習事項について、どうしてもうまくいかないところやうまくいったところについて、話したり、書いたり、撮ったりなどしてアドバイスや感想を伝え合う。	8	・めあてを意識することを声かけしながら机間指導をする。文字の中心と大きさ、そのほかの既習事項を使って、グループでアドバイスや感想を伝え合う時間を取る。その際に、話すだけでなく、実際に書いてみたり、タブレットで撮ってみたりなど対話の手助けとなるものも使ってよいことを伝える。  ◇友達の作品に対して、アドバイスや感想をもつことができる。
グループで対話（感想交流・アドバイス）		
3 5, 6枚練習をしてまとめ書きをする。 ・グループで対話したことを生かして、練習やまとめ書きをする。必要なら、練習シートを活用して練習をする。	20	・対話でのことが意識できていても、どうしてもうまくいかない児童には、筆を持って動かしてみたり、練習シートを促したりなど確認できるようにする。
4 今日の一枚を選ぶ。 ・この時間は、全体のバランスや上手さだけでなく、自分のめあてが意識して書けたものを選ぶ。	2	・児童自身が自分のめあてに沿って選ぶことを基本とするが、友達や教師とともに選んでもよいこととする。
5 ふり返りをする。 ・今日の一枚として選んだ作品と試し書きを見比べ、練習して伸びたところ、対話で感じたことなどを付箋に書いたり発表したりする。 ・今日の一枚を作品棚へ提出し、片付けをする。	13	・今日の一枚とお手本を見比べ、めあてにそってふり返りができるように意識させる。 ・一緒に今日の作品を見たり、試し書きからの変化について伝えたり、友達との対話から感じたことを問いかけるなどし、達成感がもてるような時間にしたい。  ◇文字の中心や大きさ、既習事項を意識して書くことができる。

(3) 本時の評価

	十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手だて
知識及び技能	文字の中心と大きさを的確にとらえ、既習事項を意識しながら筆使いに注意して書くことができる。	文字の中心や大きさ、既習事項を意識して書くことができている。	文字の中心や大きさの捉えが難しい児童には、なぞることができる練習用紙を準備するとともに、実際に筆を一緒に動かして書いてみる。既習事項については、書写ナビを見ながらポイントを確認する。
主体的に学習に取り組む態度	友達の作品に対して、書写の言葉を使いながら、アドバイスや感想を積極的に伝えようとしている。	友達の作品に感想やアドバイスをもち、伝えようとしている。	